

## 令和4年度第1回坂井市地域公共交通会議 会議録

開催日時 令和4年5月17日(火)午前10時00分～  
場 所 坂井市役所多目的研修集会施設3F大ホール  
出席者 三寺会長  
住民代表: 木村委員、佐藤委員、高岡委員、正藤委員  
関係機関: 下平委員、堤委員、宮西委員、廣部委員、源藤委員、  
吉川委員(代理:寺前氏)、江川委員(代理:藤田氏)、  
関委員、島田委員、  
事業者: 佐々木委員(代理:長谷川氏)、長谷川委員、矢部委員、吉田委員  
関係部署: 千秋委員(代理:井上氏)、八杉委員(代理:細川氏)、  
稲葉委員(代理:伊藤氏)、中田委員(代理:宇野氏) 計22名  
欠席者 住民代表: 加藤委員、古川委員、内藤委員  
事務局 総合政策部・西部長、公共交通対策課・長谷川課長、平尾、藤田

### 1. 開会

事務局の報告及び委員紹介  
委員出席状況・会議成立を報告

### 2. 委嘱状交付

### 3. 市長あいさつ

池田市長より挨拶

### 4. 会長選出

互選の結果、福井工業大学三寺委員に決定

### 5. 会長あいさつ

三寺会長より挨拶

### 6. 報告事項

- (1)コミュニティバスの運行実績について(資料1)
- (2)坂井市交通分析シートについて(資料2)

<事務局> 資料1・2に沿って続けて説明

<会長>

海岸線が0の記載が続いているが、これについて注釈の注釈をお願いしたい。

<京福バス>

海岸線は三国駅と米納津上を運行している坂井市の系統だが、福井市にまたがっている系統もあり、ほかの系統と合わせてみると需要がある。今年の4月から、坂井市だけの部分で通学に配慮した路線を新設し、利用していただいているため、今後は0ではなくなる予定である。

(3)オンデマンド型交通実証実験 運行実績について(資料3)

<事務局> 資料3に沿って説明

(4)えちぜん鉄道の運行状況について(資料4)

<えちぜん鉄道> 資料4に沿って説明

今年は5月の三国祭、8月の三国花火大会があるため、期待している。コロナの感染拡大防止に注意しながら運行する予定である。

## 7. 協議事項

(1)オンデマンド型交通の運行形態の変更について(資料5)

<事務局> 資料5に沿って説明

<委員>

大変便利なシステムだと思うが、行きはいいが、帰りはどうしているのか。また、先日、回覧板で地区の中で三つまで停留所を新設できるようなことを見たが、その点について聞きたい。

<事務局>

オンデマンドというのは、近い距離の交通を救う手段として整備したいと考えている。近い距離とはおおむね、車で30分以内で移動できる場所を想定している。結果として基本的に旧町、三国町は三国町だけ、丸岡町は丸岡町だけ、春江と坂井は二つセットで春江と坂井を移動できるという形態を考えている。

しかしながら、今回の実証実験により、日常に行く買い物や病院は必ずしも旧町内で動くわけではないということが明らかとなり、旧町内の移動を基本としつつ、30分以内で移動できる医療機関や買い物先については旧町以外でもプラスアルファで行くことができる仕組みを今後提案したいと考えている。

<委員>

名称について、もっとわかりやすい名称で周知する手立てがあるといいのではないかと。

<事務局>

今後、愛称募集をする予定である。周知については、各まちづくり協議会の集まりなどに出向いて説明するなど地道な活動をする予定。

<会長>

実証実験は今年度中か。

<事務局>

日付は明言できないが、今年度順次エリアを拡大し、来年以降全市で運行することを目指して各種調査、事務手続きを進める。

<会長>

住民は登録をすれば誰でも使えるという認識で間違いないか。

<事務局>

三国、春江坂井、丸岡それぞれのエリアでそのエリア内の市民は使えるようにする。使えるのは住民の方のみを想定している。

<会長>

参考資料の2の、スマートフォンでの利用はどのくらいか。

<事務局>

実証実験の結果では、23%がスマホで予約をしている状況。

<会長>

23%とはどういった年代か。

<事務局>

オンデマンド交通の利用はほとんどが高齢者だが、中には中高生の部活動などの移動に利用いただいている。その方がスマホを利用いただいていると認識している。

<委員>

コミュニティバス、接続ルート、基幹ルートが運行しているが、その上でオンデマンドにさらに経費がかかる。コミュニティバスの本数維持といった計画はどのようになっているのか。

<事務局>

オンデマンドによる交通体系の見直しはそれだけで完了するものではなく、それぞれの交通事業者の役割分担を明確にしながら進めていくことが重要だと考えている。

現在の接続ルートをすべてオンデマンドに移行するというのが将来に向けた構想である。基幹ルートはその機能を残しつつ、もう少し直線的に、利便性を上げるためにルート等を見直しをする必要があると考えている。

<委員>

一律の料金を考えているようだが、距離に応じて利用料を安くすることは考えていないのか。また、1日平均利用者、2.1人や1.3人と書いてあるが、これは市として妥当と思っているのか、予想以上に少ないと考えているのか。

<事務局>

現在のコミュニティバスも定額で運行しており、それを基本に考えているが、今後の検討材料にしていきたい。

実証実験の数については、これからは接続ルートを廃止し、オンデマンドにしようとしているため、推測で磯部地区は41.6人プラス26.4人の約68人が乗ると見込まれ、春江東部地区は同様に合計50数名が乗ると推測している。この数を比較すると、オンデマンド実施後は今までの利用者の倍の人数が乗るであろうと受け止めている。公共交通計画でも全体で3割増とあげているが、事務局としては手ごたえのある数字と考えている。

<委員>

免許返納者はコミュニティバスに無料で乗れるが、オンデマンドも無料の対象にするのか。また、コミュニティバスをもう少し集落の中を回ってくれるようにしてほしい。行先表示がわかりにくいと思う。停留所も古く時刻表が見えないところもあるため、善処していただきたい。

<事務局>

オンデマンドの停留所は、区長さまに増設希望調査を行っている。時刻表については、老朽化等による更新等について協議しているため、しばらく時間をいただきたい。免許返納の推進というのは強く認識しており、安全対策課と連携し、オンデマンドでどのように対応し、周知していくか、協議をスタートしたところである。

<委員>

現状、コミュニティバスは無料だが、オンデマンドは有料ということか。

<事務局>

現在の実証実験については、全市民一律運賃となっている。ただ、コミュニティバスは、例えば障がいのある方というのは料金が安い仕組みになっているため、その対応や免許返納の推進含めて、今のコミュニティバスに合わせる形を検討している。

以上により、質疑終了

<会長>

本件について、異議がなければ挙手をお願いしたい。

【全員挙手につき協議事項承認】

8. その他

<委員>

コミュニティバスについて、坂井市役所(本庁)にはコミュニティバスのバス枠(道路標示)がない。バス枠をつけていない理由はなにかあるか。

<事務局>

理由については認識していないため、管理部門に確認する。

## 9. 閉会